次世代運行管理・支援システムの検討課題

資料1－2

他サービスの活用
・ヒヤリハットマップの作成
・保険サービス
・車両メンテナンス　　等

【検討課題7】
一元管理の方法を検討
①各社クラウドサーバーのプラットフォーム化
②各メーカー毎のクラウドサービス＋営業所における共通ソフトでの解析

クラウドサービス

A事業者 運行管理者

【検討課題6】
運行に係る情報の一元管理すべき情報の検討。
①車両走行データ
②運転者等の運行時挙動、労働時間、IT点呼データ
③運転者の健康診断、適性診断のデータ
④車両の点検整備情報

●クラウド通信
・イベント発生時の双方向通信

●SDカードによるデータ転送

車載器以外からの情報

【検討課題5】
運行記録計等のデータの送信方法や送信頻度について、実用性及びコスト面を踏まえ、事業者規模に応じ検討。
①携帯回線 or WIFI　→事務所
②携帯回線 or WIFI→クラウド（経由）→事務所
③SDカード

中継輸送等に係る情報共有

B事業者 運行管理者

運　転　者

【検討課題4】
車両走行データ及び運転者等の運行時挙動データの出力形式の標準化を検討。

車載器

連　携

次世代運行記録計

車両走行データの取得

車　両

【検討課題3】
運行記録計と連携すべき機器及びその連携方法を検討。
①ドライブレコーダー
②各種ヘルスケア機器
③バスジャック時等の緊急対策装置（車両位置情報含む）
④ETC

【検討課題2】
・運行記録計の本来の目的を明確化し、既存の技術基準を必要に応じて見直す。
・法定3要素の他、安全運転指導や省エネ運転促進、その他サービスへの活用及びコスト面や備えるべき要件を踏まえ、取得すべき車両データを検討。
①法定3要素（速度、時間、距離）（現行）
②安全運転指導（急ブレーキ・急発進、急ハンドル等のデータ等）
③省エネ運転促進（燃料消費量、距離）

【検討課題1】
車両走行データの取得方法等について、技術開発の状況やコスト面やセキュリティを視野に入れつつ、最適な方法を検討。
①速度パルス等を専用配線から分岐して取得（現行）
②速度パルス等を専用ポートより取得
③車載CANデータより取得（OBDポート、専用ポート、カーナビ等）
④GPSによる速度データの取得（スマホ　等）